

平成 25 年度 第 2 回中部防災技術専門委員会

議事概要

1. 日 時 平成 25 年 9 月 20 日 (金) 11:30~17:00
2. 場 所 現地調査 (国道 19 号桜沢改良、国道 41 号下原改良、国道 156 号大和改良)
3. 出席者

[委員]	◎	やしま 八嶋	あつし 厚	岐阜大学 理事・副学長
		さかい 酒井	としのり 俊典	三重大学生物資源学研究科共生環境学専攻 教授
		まえだ 前田	けんいち 健一	名古屋工業大学都市社会工学(環境都市系プログラム) 教授
		こばやし 小林	ともなお 智尚	岐阜大学大学院工学研究科環境エネルギーシステム専攻 教授
		うめもと 梅本	かずひろ 和裕	一般社団法人日本応用地質学会

※敬称略、◎は委員長

4. 議 事

1. 現地調査

- 国道 19 号桜沢改良について
- 国道 41 号下原改良について
- 国道 156 号大和改良について

2. 確認事項 (第 1 回中部防災技術専門委員会より)

- 国道 41 号飛騨市神岡町船津落石災害について

<委員からの主な意見>

1. 現地調査

○ 国道 19 号桜沢改良について

- ・ 別線整備するにしても現道に民家がある以上は、廃道には出来ない。別線整備後、国で管理するのか、県・市に移管するに関わらず、現道対策も踏まえた事業費を計上すべき。
- ・ 落石は印を付けて、いつ頃落石したか記録を残しておく必要がある。
- ・ 「B: 要対策箇所 (擁壁)」 (168kp 付近) の石積みの一部せり出しについては、山から押されて石がせり出しているなら早急に対応すべき。石積みの背面が空洞になって、せり出しているなら「要対策」として経過観察すればよい。いずれにしても原因を解明するべき。
- ・ 168kp 付近の擁壁アンカーキャップの損傷は、防蝕の為のアンカーキャップ補修+グリース充填といった対策をとるべき。

○ 国道 41 号下原改良について

- ・ 桜沢改良と同様に、現道対策も踏まえた事業費を計上すべき。

○ 国道 156 号大和改良について

- ・ 桜沢改良、下原改良と同様に、現道対策も踏まえた事業費を計上すべき。
- ・ 並行する主要地方道白鳥板取線も含めた事業計画の見直しをすることができる段階がいくつかあったのではないか。
- ・ 落石は印を付けて、いつ頃落石したか記録を残しておく必要がある。

2. 確認事項（第1回中部防災技術専門委員会より）

○ 国道41号飛騨市神岡町船津落石災害について

【緊急対策・短期対策（案）における詳細工法の提案】

- ・ 緊急対策・短期対策（案）については了承。

【中・長期対策（案）における検討方針】

- ・ 別線ルートにした場合の現道の取扱いはどうなるのか
→ 廃道の予定
- ・ 旧神岡鉄道軌道敷きを使う案はあるのか
→ トンネル抗口部については旧神岡鉄道軌道敷きも含めた待ち受け検討は必要であるが、船津北木地屋地区については、旧神岡鉄道がトンネル部となっており旧神岡鉄道軌道敷きは使わない予定
- ・ 中・長期対策（案）における検討方針については了承。